

	由利本荘市立新山小学校 学校だより	令和4年度 第44号
	校報松風	令和5年3月20日
		発行 校長

卒業証書授与式～第57期卒業生が立派に巣立ちました～

3月14日（火）に第57期卒業証書授与式を行いました。今年度の卒業生は132名、昭和41年度から令和4年度までの卒業生の総数は、10,236名となりました。

卒業生は、学級担任から名前を呼ばれるとステージ上で元気よく返事をし、立派な態度で卒業証書を受け取りました。校長式辞では「受身～負ける練習～」という詩を紹介し（裏面に掲載）、失敗を恐れず、前向きにがんばってほしいという話をしました。卒業生の呼びかけや歌声も素晴らしく、中学校でもがんばろうという意気込みが伝わってきました。さすが新山小学校の最高学年と感心しました。在校生代表として参加した5年生の態度も素晴らしく、卒業生にしっかりと感謝の気持ちを伝えました。

卒業生の保護者の皆様には、6年間、本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力をいただいたことに心より感謝申し上げます。

ひまわり学年132名の新しいステージでのますますの活躍を期待しています。中学生になっても、保護者の皆様、地域の皆様の温かい見守りと声掛けをよろしくお願いします。



【呼びかけと歌を発表する卒業生】

令和4年度修了式～保護者の皆様・地域の皆様、一年間ありがとうございました～

本日3月20日（月）に修了式を行い、本年度の教育活動が全て終了しました。一年間、命に関わるような大きな事故や怪我がなく過ごせたのも、保護者の皆様、地域の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

今年度も新型コロナウイルスの影響で、様々な制限がある中で教育活動を行ってきましたが、少しずつ平常な活動を行うことができるようになってきて、1～5年生全員が体育館に入って修了式を行うことができました。

修了式では、各学級担任が「第○学年○組 ○名」と言うと、学級全員が元気よく返事をして立ち、校長が代表者に修了証を渡しました。1～5年生のどの学級の子どもたちも大変立派な態度で式に臨んでいました。「今年度よくがんばった。」という満足感と「新年度もがんばるぞ。」という意気込みが伝わってきました。校長からは、今年度、子どもたちががんばったことを振り返り、次年度に期待することを話しました。

明日から4月5日（水）までは春休みとなりますが、安全に過ごすことができるよう、家庭や地域での声掛けと見守りをよろしくお願いします。

春休み中に、事故や大きな怪我等があった場合は、学校（電話22-1420）か校長か教頭の携帯電話にご連絡ください。

メール等でもお知らせしていますが、不審者情報もいくつか入ってきています。不審者にあたり見かけたりした場合は、できるだけ早く由利本荘警察署（電話23-4111）へ、そして学校か校長か教頭の携帯電話へご連絡ください。

運動会のお知らせ

期日：5月14日（日）午前中で終了予定

場所：本荘北中学校グラウンド

※ 5月15日（月）振替休業日

※ 荒天で5月14日（日）に実施できない場合

・5月14日（日）は休み。

・5月15日（月）弁当持参で通常授業。

・5月22日（月）午前、ナイスアリーナで運動会実施。給食あり。午後通常授業。



【低学年広場で元気に遊ぶ1年生 3月16日】

※ このおたよりは、卒業生の保護者の皆様には3/20(月)にメールで、3/28(火)に紙媒体でお届けします。

卒業証書授与式 校長式辞で紹介した詩

失敗を恐れず、前向きにがんばってほしいという気持ちを込めて紹介しました。

「受身」～負ける練習～ 相田みつを

柔道の基本は受身
受身とは投げ飛ばされる練習
人の前で叩きつけられる練習
人の前でころぶ練習
人の前で負ける練習です

つまり、人の前で失敗をしたり
恥をさらす練習です

自分のカッコの悪さを多くの人の前で
ぶざまにさらけ出す練習
それが受身です

柔道の基本では
カッコよく勝つことを教えない
素直にころぶことを教える
いさぎよく負けることを教える

長い人生には
カッコよく勝つことよりも
ぶざまに負けたり
だらしなく恥をさらすことのほうが
はるかに多いからです

だから柔道では、始めに負け方を教える
しかも、本腰を入れて 負けることを教える

その代り
ころんでもすぐ起き上がる
負けてもすぐ立ち直る
それが受身の極意
極意が身につけば達人だ



若者よ 失敗を気にするな
負けるときにはさりと負けるがいい
口惜しいときには「こんちくしょう!!」
と、正直に叫ぶがいい
と、解なんか一切するな
泣きたいときには 思いきり泣くがいい
やせ我慢などすることはない

その代り
スカッと泣いて ケロリと止めるんだ
早くから勝つことを覚えるな
負けるころとをうんと学べ
恥をさらすことにうまくなれ

そして下積みや下働きの
苦しみをたっぷり体験することだ
体験したものは身につく
身についたもの — それはほんものだ

若者よ
頭と体のやわらかいうちに
受身をうんと習っておけ
受身さえ身につけておけば
何回失敗しても
すぐ立ち直ることができるから.....

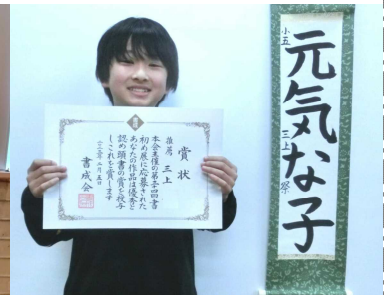
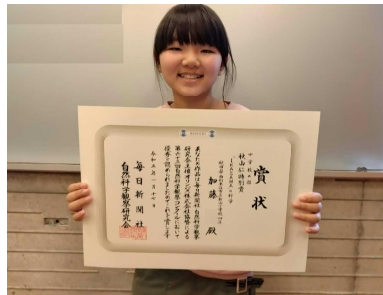
そして
負け方や受身の
ほんとうに身についた人間が
世の中の悲しみや苦しみに耐えて
ひと（他人）の胸の痛みを
心の底から理解できる
やさしい暖かい人間に
なれるんです。

そういう悲しみに耐えた
暖かいこころの人間のことを
観音さま、仏さま、と呼ぶんです。

児童のがんばり～おめでとうございます～

写真左から

- 第63回自然科学観察コンクール
中学生の部「秋山 仁 特別賞」
「IKASAMA」の科学
由利本荘市ふれあい教室
サイエンスクラブ
4年 加藤 *
小・中学生が合同で研究し、全
国コンクールで素晴らしい賞を
いただきました。



- 第34回書成会 書き初め展
推薦 5年 三上 *

写真左から

- 大内スポーツ賞
第13回由利本荘市市民スキー大会 R5. 3. 5
スノーボード小学校の部 第2位
4年 森 **



- 第35回由利本荘市ネオホッケー大会
兼第9回秋田県ネオホッケー大会 R5. 2. 19
ジュニアの部 優勝 本荘ソフトA
4年 佐藤 **
本荘ソフトAチームのメンバーとして出場し、優勝に貢献しました。